



イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

2011年12月 1日 No. 045

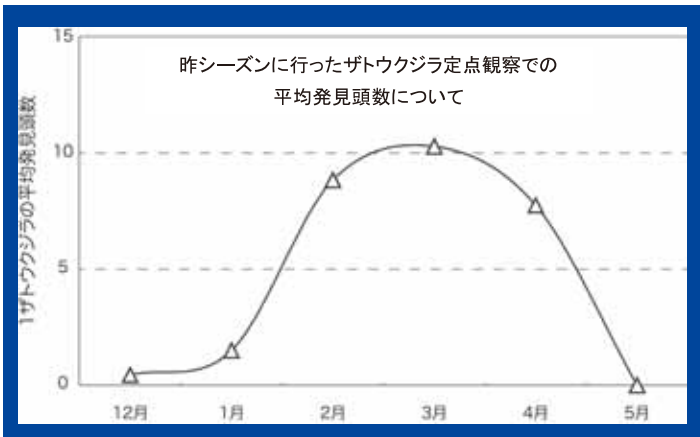
一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)



「クジラから便りが届きました」

先月の村民便りでは、そろそろザトウクジラが来遊する時期だとお話しました。そして2011年11月10日、OWAに「西側でクジラが見えていますよ」との電話をいただきました。そのおかげで、2年続けてウェザーステーションから、初クジラを確認することができました。情報提供をして頂いた方には、改めてお礼申し上げます。

昨年のザトウクジラの初確認は11月21日でしたので、それよりも10日ほど早い発見となります。



昨シーズンのザトウクジラの来遊状況は例年通り、2月から3月にかけてピークを迎える傾向でしたが、今シーズンはどうなるでしょう？

まだザトウクジラの本格的なシーズンではありませんので、クジラを見つけたなどの情報がありましたら、OWAまでお知らせ下さい。また、ホエールウォッチングを楽しまれる際は、自主ルールの趣旨をご理解の上、ご協力お願いいたします。

「イルカの新種」

これまでに知られているハンドウイルカ属のイルカは、ハンドウイルカ(*Tursiops truncatus*)とミナミハンドウイルカ(*Tursiops aduncus*)の2種が知られていました。

そして今年、ハンドウイルカ属の新種が見つかったという論文が公表されました。発見された場所は、オーストラリアのビクトリア州。英名はBurrunan dolphin、学名は*Tursiops australis*と命名されました。

以前からその存在は知られていたのですが、まさか新種のイルカだとは思っていなかったようです。

新種と判断するには、何となくでは認められないので、きちんとした解析を行います。

まず第一に外部形態の観察です。体の各部位(ヒレの長さ、頭の大きさなど)をあちこちを計測したり、体の色なども観察します。

その結果、他の個体と比較すると吻が短かったり、背ビレの形が異なったり、頭蓋骨が小さかったり等、色々な違いが発見されたそうです。

体色も違うようですね(写真掲載サイト:<http://www.plosone.org/article/slideshow.action?uri=info:doi/10.1371/journal.pone.0024047&imageURI=info:doi/10.1371/journal.pone.0024047.g005>)

他にもDNA解析などの結果も考慮し、総合的に判断した上で、新種と結論づけられました。

皆さんは「いつも見ているイルカと違うなあ。。。」なんてことを思ったことがありますか？

もしかしたらそのイルカ、新種のイルカかもしれませんよ。



ザトウクジラの季節が始まりましたね。

体長、約13mのザトウクジラは、北の海域から長い長い旅を経て繁殖活動、出産、子育てのために小笠原諸島にやってきます。

ザトウクジラのウォッチングは船の上からでも、展望台などからでも楽しむことができます。

双眼鏡を1日300円で、レンタルをしております。

ご希望の方は、小笠原ホエールウォッチング協会までお越し下さい。



一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町 Tel 04998-2-3215

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
e-mail owa@h6.dion.ne.jp

